



医学部

教授 宮里 邦子さん (母子看護学)

Miyazato Kuniko

●プロフィール

NTT九州病院（現・NTT西日本九州病院）で21年間助産師として働く。

1991年 熊本県立大学文学部英文学科入学

1993年 同大生活科学部2年次に転学部

1996年 聖路加看護大学大学院入学

1998年 広島大学医学部保健学科

2004年 熊本大学医学部保健学科教授

看護師のキャリアアップのために。

充実感を味わった助産師の仕事

宮里さんはNTT九州病院の助産師でした。わき目も振らずに駆け抜けたような生活。子育てしながら、夜勤もしながらの21年間でした。「家に帰ってからも気が休まらない毎日でした。引継ぎの時に言い忘れたことがなかったかと心配になったり、あるいは気がかりな患者さんについて夜勤の看護師さんに電話を入れることも」。

けれども、辞める時はとても悩んだそうです。お産を終えたおかあさんが「次もまた宮里さんにお産をお願いしたい」と言ってくれた時の喜び。「苦しいこともたくさんあるけれど、これほどの充実感を味わうことはもうないかもしれない」と、様々な思いが交錯しました。

助産師という職業がやりがいのある仕事であり、楽しくもあったからです。

やっぱり看護しかない

育児も一段落ついた宮里さんは「もう一度、勉強がしたい。看護とは違うことを学ぼう」と決意し、1991年、熊本県立大学文学部英文学科へ進学します。

「なんでも全て自分でやってきたわけじゃないんですよ。周りのサポートがあったから、21年間続けてこられたんです。でも、子育てしながら夜勤もするということが出来たでしょう。なんだか、自信がついちゃって、何でも出来るような気がしたんですね。」

英文学を学び始めたものの、看護関係の研修会やイベントがあると知ると気になって仕方がなく、いつも参加したそうです。

2年間英文学科で学んだ後、「やっぱり自分は看護の道から離れることは出来ないのかもしれない」と、同大生活科学部2年に転学部します。

そして、看護の基盤となる社会の見方、考え方を学びます。その後、聖路加看護大学大学院に進み、研究者として看護の道へ入ることになりました。

現在、熊本大学では「疾患を持った子どもと母親（家族）との関係について」子どもと母親のその両方への支援が必要であるという視点で小児看護学の講義をされています。

ゆとりから良いケアは生まれる

看護師になって真に自立できるまで5年はかかるそうです。大学で4年間学んだ後に臨床看護師として働き始めた若者たちの大半はリアリティショックを体験するといいます。

そして理想と現実の落差に呆然とし、自信を失い、早期に仕事を辞めてしまうケースが非常に多いことを問題視しています。また、病院での看護師の勤務体制の改善も進まず、30年前とほとんど変わらない状況です。

今でも、多くの病院で日勤の仕事を終えて、その数時間後には深夜勤に出てくるなどの厳しいシフトが続いています。そういった中で多数の看護師が結婚したら仕事を辞めていくという現実。

「普通の生活が出来ないのが現状です。人間らしい心のゆとりが得られなくては、良いケアは出来ません」。

宮里さんは季刊『ナースアイ』の企画編集にも携わり、「看護師のキャリアアップと早期離職問題」といった特集を組むなど、常に身近な問題を取り上げ、看護環境の改善を目指すことにも力を注ぐ毎日です。